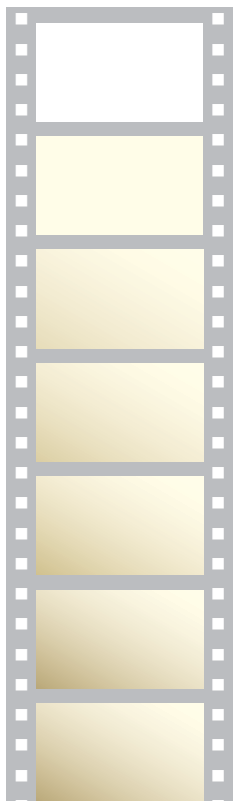
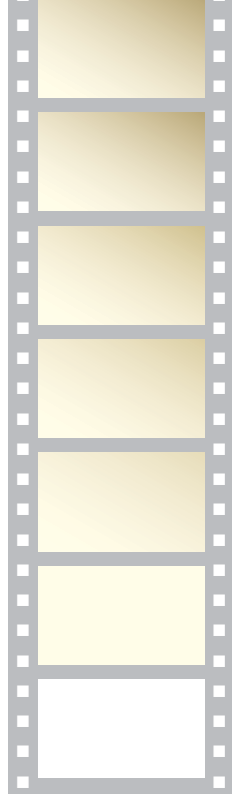


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第三十五回 「ラジオ・デイズ」①

平成23年7月24日、テレビの放送界はアナログからデジタルへ移行し、家にテレビがやって来て以来の大騒ぎでした。

しかし、テレビよりも先に家にやって来た放送は、ラジオでした。

日本のラジオ放送がスタートしたのは、今から87年前、大正14年3月、社団法人・東京放送局（J O A K）でした。6月から社団法人・大阪放送局（J O B K）が仮放送を始め、7月から社団法人・名古屋放送局（J O C K）が本放送を開始しました。

昭和3年11月の大札の儀（昭和天皇・即位の礼）を控え、逓信省が放送網の統一を推進し、大正15年8月、三つの放送局が統合され、新法人・日本放送協会（N H K）が発足しました。つまり、放送局はNHKのラジオだけだったのです。

ぼくがもの心付いた時、家の茶の間には立派な木製のキャビネット（中には真空管が入っていました）の大きな横型のラジオを置いていました。

昭和25年、戦後の民主化を背景に電波三法（電波法・放送法・電波監理委員会設置法）が国会で成立し、NHKは放送法に基づく特殊法人・日本放送協会となりました。また、民放も認められたため、翌年9月には、中部日本放送（JOAR）が初の民間ラジオ放送をスタートさせ、日本の放送は、NHK・民放併存時代に入ったのです。（RABラジオのスタートは、昭和28年10月12日、J O G R）

5年に一度、転勤していたサラリーマンの子どものぼくは、全国各地でいろいろなラジオ放送を聴きました。歌番組（のど自慢、三つの歌、紅白歌合戦）、連続放送劇（二丁目一番地、向こう三軒両隣り、新諸国物語・笛吹童子、紅孔雀、七つの誓い、君の名は、風雲黒潮丸、鐘の鳴る丘など）、クイズ番組（話の泉、とんち教室、私は誰でしょうなど）。思い出すタイトルは、NHKが多いですね。

特に夕方、楽しみにしていた民放ラジオ番組があります。

SE（剣道の道場、けいこの音）

男の声「ムムム、猪チヨコザイ口コナマイキ才（小生意気）な小僧め！

名を！名乗れ！

鈴之助『赤胴鈴之助だア！』

♪ 剣をとっては日本一に

夢は大きな少年剣士

親はいないが元気な笑顔

弱い人には味方する

オーがんばれ、たのむぞ

僕らの仲間、赤胴鈴之助（以下略）

原作 竹内つなよし

作詞 藤島信人

作曲 金子三雄

編曲 渡辺浦人（青森市出身）

岩瀬 寛

歌 上高田少年合唱団

（続）

（文中敬称略）

伸

平成24年1月